2020年シンポジウム：「小児医療における多職種連携：国立病院機構が担うべき小児医療のありかたを模索する」

子どもたちの「できる！」を支えるチームアプローチ -CLSの視点からみる多職種連携-

伊藤麻衣[†] 米道宏子 阿部啓子 窪田 満

第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日～11月14日WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 4 (288-291) 2022

要旨

子どもたちは生まれてからさまざまな人たちや経験と出会い、日々を重ねることで成長発達する。その成長発達の過程における医療との関わりや医療体験は、その子どもの成長発達にさまざまな影響を及ぼす。まずは、医療処置そのものへの対処が必要である。初めて経験する医療処置や検査、治療等も対処し乗り越えていく必要がある。加えて、処置や治療により、生活や外見の変化や価値観や感情の変化といったさまざまな変化への適応が必要となる。こうした「乗り越えていく力・適応する力」を支援し育むことは、医療環境下においても子どもたちの健やかな成長発達を促すことにつながると考えられる。子どもたちが「できる！」と自身の「力」を認識し、必要な場面でその子らしく「力」を発揮するためには、子どもと家族を含めた多職種のチームアプローチが必要である。チャイルドライフスペシャリスト (Child Life Specialist: CLS) は、子どもの成長発達やストレスへの対処・回復、コミュニケーションなどについての専門知識を持ち、多職種チームの一員として心理社会的な支援を行う専門職である。本稿では、CLSの活動とCLSの視点からみる多職種連携について紹介する。

キーワード チャイルドライフスペシャリスト (CLS), 多職種連携, 子ども, 家族, チームアプローチ

CLSとは

CLSは、20世紀前半に北米において遊びや教育のプログラムとして始まった。医学の進歩の一方で、医療に関わる子どもと家族の精神的負担が大きな課題と認識されるようになったことで、医療現場において心理社会的支援を行う専門職として発展してきた。

子どもの発達学を基礎として、家族学、コーピン

グ、死生学、心理学など多岐にわたって学び、北米に本部を置き資格の管理運営を行っている Association of Child Life Professionals (ACLP) の定める規定の時間以上の現場実習を終えると資格試験を受けることができる。資格取得後は学術集会や研修会などへの参加による継続的な学習を続けながら5年ごとに更新が必要となる。ACLPによると、2021年3月時点で世界に6,300人以上の有資格者がいる。その活動場所も多岐にわたっており、近年で

国立研究開発法人国立成育医療研究センター チャイルドライフサービス室 [†]チャイルドライフスペシャリスト
著者連絡先：伊藤麻衣 国立研究開発法人国立成育医療研究センター チャイルドライフサービス室
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

e-mail: ito-mi@ncchd.go.jp

(2021年3月19日受付, 2022年2月25日受理)

Interdisciplinary Team Approach to Support Children's "I Can!": From the Perspective of CLS

Mai Ito, Hiroko Yonemichi, Keiko Abe and Mitsuru Kubota, National Center for Child Health and Development

(Received Mar. 19, 2021, Accepted Feb. 25, 2022)

Key Words: Child Life Specialist: CLS, interdisciplinary team, child, family, team approach